

## 平成28年第3回那須塩原市議会定例会

### 議事日程（第2号）

平成28年6月6日（月曜日）午前10時開議

- 日程第 1 会派代表質問
- 2 1 番 相馬義一議員
1. 第2次那須塩原市総合計画について
  2. 市政運営方針について
- 日程第 2 議案第44号～議案第47号の質疑
- 日程第 3 議案第42号の質疑
- 日程第 4 議案第43号の質疑
- 日程第 5 議案第48号及び議案第49号の質疑

出席議員（26名）

1番	藤村由美子	議員	2番	星宏子	議員
3番	相馬剛	議員	4番	齊藤誠之	議員
5番	佐藤一則	議員	6番	鈴木伸彦	議員
7番	櫻田貴久	議員	8番	大野恭男	議員
9番	伊藤豊美	議員	10番	松田寛人	議員
11番	高久好一	議員	12番	鈴木紀	議員
13番	磯飛清	議員	14番	眞壁俊郎	議員
15番	齋藤寿一	議員	16番	君島一郎	議員
17番	吉成伸一	議員	18番	金子哲也	議員
19番	若松東征	議員	20番	山本はるひ	議員
21番	相馬義一	議員	22番	玉野宏	議員
23番	平山啓子	議員	24番	植木弘行	議員
25番	人見菊一	議員	26番	中村芳隆	議員

欠席議員（なし）

説明のために出席した者の職氏名

市長	君島寛	副市長	人見寛敏
教育長	大宮司敏夫	企画部長	藤田輝夫
企画政策課長	小泉聖一	総務部長	和久強
総務課長	菊池敏雄	財政課長	中山雅彦
生活環境部長	山田隆	環境管理課長	臼井一之
保健福祉部長	菊地富士夫	社会福祉課長	田代正行
子ども未来部長	藤田恵子	子育て支援課長	石塚昌章
産業観光部長	藤田一彦	農務畜産課長	久利生元
建設部長	君島勝	都市計画課長	稲見一美
上下水道部長	邊見修	水道課長	釣巻正己
教育部長	伴内照和	教育総務課長	富山芳男
会計管理者	松江孝一郎	選管・監査・固定資産評価・公平委員会事務局長	稲見一志
農業委員会事務局長	佐藤章	西那須野支所長	関谷正徳

塩原支所長 印 南 良 夫

本会議に出席した事務局職員

議会議務局長 渡 邊 秀 樹

課長補佐兼  
議事調査係長 福 田 博 昭

議事調査係 室 井 良 文

議事課長 増 田 健 造

議事調査係 長 岡 栄 治

議事調査係 磯 昭 弘

開議 午前10時00分

◎開議の宣告

- 議長（中村芳隆議員） おはようございます。  
散会前に引き続き、本日の会議を開きます。  
ただいまの出席議員は26名であります。

◎議事日程の報告

- 議長（中村芳隆議員） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

◎会派代表質問

- 議長（中村芳隆議員） 日程第1、会派代表質問を行います。  
質問通告者に対し、順次発言を許します。

◇ 相馬義一議員

- 議長（中村芳隆議員） 敬清会代表、21番、相馬義一議員。  
○21番（相馬義一議員） おはようございます。  
ただいまの議場コンサート、大変穏やかに聞かせていただきました。弦楽四重奏というと、私的な個人的なお話で大変申しわけございませんが、タイタニックの最後の船がこう沈没するときの四重奏をちょっと思い出しながら聞かせていただきました。  
大変素晴らしい音楽を聴いた後での会派代表質問となりますが、現実に戻りまして、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、敬清会会派代表質問を行います。

まず、1項目めでございます。第2次那須塩原市総合計画についてお聞きいたします。

「人と自然がふれあうやすらぎのまち那須塩原」を将来像と掲げ、その実現に向けて策定した第1次那須塩原市総合計画も、本年度をもって終了します。

新市誕生後、栗川市長、阿久津市長、二人の首長がこの総合計画に基づき、市政運営を行ってきました。その間、リーマンショックによる経済不安や、3.11東日本大震災、さらにはそれによる福島第一原子力発電所事故による放射能問題等、多くの課題の中、市民の負託に応えようと全身全霊を傾けるとともに、成果を残されました。

本年から君島市長が誕生し、市政を行うこととなりますが、今後10年間のまちづくりの基本指針となる「第2次那須塩原市総合計画」の策定に当たっては、市民の皆様が夢を持って暮らし、那須塩原市民であることを誇りに思えるような総合計画としていただきたく、お伺いします。

(1)第2次那須塩原市総合計画の進捗をお伺いします。

(2)3回程度、審議会が開催されたようですが、どのような内容が審議されたかお伺いします。

(3)今後の策定のスケジュールと、これからの審議内容についてお伺いいたします。

以上、1回目の質問といたします。

- 議長（中村芳隆議員） 21番、相馬義一議員の質問に対し、答弁を求めます。

市長。

- 市長（君島 寛） おはようございます。

敬清会、相馬義一議員の会派代表質問にお答えをいたします。

まず初めに、1の第2次那須塩原市総合計画について、順次お答えをまいります。

初めに、(1)の第2次那須塩原市総合計画の進捗についてでございますが、平成27年度から策定作業に着手をしたところであり、現状では、庁内組織による検討や市民アンケート、中学生・高校生アンケートの実施などを経て、諮問機関である総合計画審議会における調査・審議を踏まえ、10年後を見据えた基本構想の案を取りまとめたところでございます。

次に、(2)の審議会でのどのような内容が審議されたかについてですが、平成27年度は審議会を3回開催しております。昨年8月に開催をいたしました第1回審議会におきましては、策定の方針、人口ビジョンについてを、10月の第2回審議会におきましては、中学生・高校生アンケートの結果、基本構想の骨子、まちづくりのキーワードについてを、そして平成28年3月の第3回審議会におきましては、市民アンケートの結果、第1次那須塩原市総合計画の検証結果、基本構想の素案について審議をいただいたところであります。

最後に、(3)の今後の策定スケジュールとこれからの審議内容についてですが、今後は前期基本計画における基本施策の方向性や具体的な施策等について調査・審議をいただき、基本構想と前期基本計画で構成をいたします、第2次那須塩原市総合計画の素案を策定いたします。その後、パブリックコメントや地域説明会、市議会議員の皆様との意見交換を踏まえ、最終案を審議会から答申をいただきまして、平成29年3月の議会において議決をお願いし、4月からの運用開始に向けてまいりたいと考えているところであります。

以上、1回目の答弁とさせていただきます。

○議長（中村芳隆議員） 21番、相馬義一議員。

○21番（相馬義一議員） それでは、ただいまの答弁をお聞きしますと、基本構想の案が取りまとめられたということでございます。

おおむね予定どおりの進捗という判断でよろしいかと思いますが、それでちょっとお聞きしますが、第2次那須塩原市総合計画の策定方針というのを以前お示しをいただいたかと思いますが。その方針の中で、地方自治体には個性豊かで魅力がある地域社会の構築や、地域特性に即した地域課題の解決が求められているとあります。今回の総合計画における施策の具体的なイメージについて、お伺いいたします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田輝夫） お答え申し上げます。

個性豊かなまちづくりあるいは地域特性に基づく課題といったものに対して、具体的にどのような施策を打っていくかというようなご質問だと思います。

まず初めに、第2次総合計画につきましては、本市の特性やあるいは時代の潮流、さらには市民ニーズ、加えまして第1次総合計画の検証結果、そういうものを踏まえた中で、現状におきましては、審議会の皆さんが中心になりまして、基本構想の案を作成いただいたというようなところでございます。

その基本構想の中で、自然との共生あるいはまちの安全・安心、快適で便利な生活、まちの生活向上、まちの持続的発展などなど、8つの基本政策というのを掲げております。

今後はこの基本政策に沿いまして、基本計画というものを策定していきます。その中で、具体的な施策やあるいは事務事業といったものを企画、立案していくこととなりますので、具体的なイメージはその中でお示しさせていただくような形になると思います。

以上です。

○議長（中村芳隆議員） 21番、相馬義一議員。

○21番（相馬義一議員） 今のお話ですと、8つの基本政策を掲げているということでございます。

その中の今の答弁の中で、本市の特徴、時代の潮流、市民ニーズという3つの言葉が出たかと思えます。そのほかに第1次総合計画の検証というのありましたが、3月のこの会派代表あるいは一般質問の中で市長の答弁の中に、その本市の特徴、特徴というか、本市のいいところだと思いますが、その件について、地域資源、まだまだ掘り起こすところがあるのではないかというご答弁があったかと思えます。その辺についてももし市長の考えがございましたら、お伺いしたいと思います。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） 再質問がございました。

3月の第2回の定例会の中でお話を申し上げましたが、この那須塩原市、大変恵まれたものをたくさん持っているということでございます。

まず1つは、交通の至便、利便性が高いということですね。それから、農観商工バランスがとれた、そういった産業構造を持っているということでもあります。

この2つを、私ども那須塩原市の大きな魅力として、これからもまた磨いていきたいというお話を申し上げたかと思えますけれども、まだまだ発掘されないすばらしいものがこの那須塩原市には埋もれているだろうというふうに思っております。

第2次の那須塩原市の総合計画を策定していく中で、こういったものをさらに発見をし、磨きをかける、ブラッシュアップしていくと、そういったことで将来の那須塩原市がもっともっと発展できるのではないかなというふうに思っているところであります。

以上です。

○議長（中村芳隆議員） 21番、相馬義一議員。

○21番（相馬義一議員） ただいまのご答弁ですが、交通の要衝であるとか、それは以前の元の多くの市長さんたちもこのような発言はされておりました。

あえてお伺いします。

那須塩原市は、近隣市町とは言わなくてもいいですけども、逆に劣って、劣っているという言葉が正しいかどうかはあれですが、ちょっとその辺について、気づいた点ございましたらお伺いします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） 強いて申し上げれば、私は本当は個人的には劣っているものはないなと思っておりますが、残念ながら、いろんな点を持ち合わせているものを、まだまだそれを使い切っていない部分がたくさんあるだろうというふうに思っています。

これらの点について、私はもっともっと努力をし、職員と一緒に那須塩原市のそういった持っている魅力を十分に、これから栃木県そして全国に発信をしていきたいなというふうに思っております。

決して劣っている点は私はないとは思っておりますけれども、その点をご理解いただきたいと思えます。

○議長（中村芳隆議員） 21番、相馬義一議員。

○21番（相馬義一議員） あえてお聞きしました。

私もそう思っております。大変災害等にも強いところでもありますし、以前からお話するように、大変、高速道路あるいは新幹線を含めまして交通のかなめでもありますから、非常によいところが多くある。

しかしながら、まだまだ市長の考えとしては、発掘されていない部分があるという考えでございます。

ます。

これを第2次の総合計画に当たりましては、その辺も含めまして、しっかりと取り入れた計画を策定して行ってほしい、そのように思います。

進捗状況については、以上でございます。

(2)の審議会の件でございます。

3回の審議会を開催をされた。平成27年の8月、10月、3月とそれぞれの会議の中で、それぞれの会議を持っているわけですが、8月においてはこの人口ビジョンなども話されたようでございます。

この中で、私も行政視察等を対外的に行った場合に、那須塩原市は11万7,000人の市でありますというふうに発表をしておりますが、先日、下野新聞の記事によりますと、11万6,600人ぐらいですか、そのようになってまいります。やはり、人口が残念ながら減り、減少の方向に向かっていくという、その辺もしっかりとこの審議会の中では検討されていると思います。

この3回の内容については、おおむね理解はするところでございますが、改めて施策方針でも示されていますが、その審議会、審議会以外の検討組織というのがあるかと思えます。あるいはその市民の参画ということを訴えておりますが、改めてこれはお伺いをいたします。どのようなものがあるのか、お伺いします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田輝夫） 審議会以外の検討組織がどのようなものがあって、どのような審議がなされたかという点と、あとは市民参画というところでのお尋ねだと思います。

まず、審議会以外の組織といたしましては、庁内に副市長をトップといたします、構成は部長級で構成するということになってまいります、総合計画策

定委員会というものがございます。また、企画部長をトップとした幹事課長で構成いたします幹事会、そして各部ごとに専門部会あるいはワーキンググループといったものを設置しております、こちらの中で総合計画の原案というんですかね、そういうものも策定作業を進めている、また今後進めていくということでございます。

また、市民参画の取り組みにつきましては、昨年度は、先ほど市長も答弁申し上げましたが、市民アンケート、中学生・高校生のアンケート、さらには市民ワークショップといったものを実施しております。今後につきましても、パブリックコメントあるいは地域に出向いて行って地域に対する説明会、そういうものを進める中で、総合計画の策定に当たりましては市民の皆さんのご意見というものを広く広く集積する、集めるような形で策定に向けてまいりたいというふうに考えております。

○議長（中村芳隆議員） 21番、相馬義一議員。

○21番（相馬義一議員） この件についても策定方針の中に記載されておりますので、理解はしているところでございます。

それでは、一点お聞きします。

第1次の那須塩原市総合計画の検証結果について、その概要等についてちょっとお示しできることがあれば、お示しをお願いいたします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田輝夫） 第1次総合計画の検証結果ということでございますが、こちらにつきましては、市民アンケートの結果といったところと、あとは第1次総合計画の今現在進行していますのは後期基本計画というものになりますので、その進捗状況との2つから検証をさせていただいたというようなところでございます。

まず、市民アンケートの結果でございますが、こちらにつきましては、41の基本施策といたしまして、例えば自然環境の保全・活用であったりとか、児童福祉の充実あるいは生涯学習の推進、市民協働のまちづくり等々、41の基本政策がございまして、これらについて重要度と満足度といったものを市民アンケートで聞かせていただいております。

その中で特に問題となりますのは、重要度が高いのに満足度が低いという施策だと思います。こちらにつきましては、6施策ございました。具体的には、地球環境の保全、児童福祉の充実、体系的な道路網の整備、そして雇用・就労環境の充実等々でございます。

これらの6施策については、やはり市民の皆さんの声ということで、次期総合計画の中にも積極的に反映してまいりたいというふうに考えているところでございます。

また、後期基本計画の進捗ということにつきましては、具体的な施策に対しまして数値目標というものを設定しております、その達成がどうだったかというようなところをチェックしたということでございます。

こちらにつきましては、全体で200施策ございます。その中で、目標を達成したあるいはおおむね達成したというものが約62%に当たっております。また、現在進捗している、現在進行形だというものが21%、そして計画の策定時の現状値から動きがなかったというものが約17%となっておりまして、進捗が見られない施策につきましては、数値目標のつくり方あるいは目標項目が正しかったのか等々も精査しながら、2次計画のほうに反映してまいればというふうに思っています。

以上です。

○議長（中村芳隆議員） 21番、相馬義一議員。

○21番（相馬義一議員） 重要度が高いのに満足

度が低い、今初めてお聞きしますが、優先改善施策となっておりますよね、6施策。これはただいまご説明いただいたので了解しますが、そのほかに、計画策定時の現状値から動きがなかったというのが17%という、まずその内容的にはこの数字が正しかったかどうかということのをこれから検証するということですが、この17%というのが総合計画の中で多いのか少ないのかというのは、まずその感覚で結構です、それが1つと、この17%に当たったものはそれは何なのか、ちょっとそれについてお伺いします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田輝夫） 目標が達成し得てない施策が約2割弱でございますが、あるということに関しては、多い、少ないかという話をさせていただければ、我々としては、これを限りなくゼロにしていかななくてはならない立場からすれば、若干多いのかなというのが率直な感想でございます。

そんな中で、どんな項目かと申しますと、何点かエグザンプルという形で出させていただきますが、消防団の充実・強化ということで、消防団員数の数なんか、やっぱり目標としましては1,435人というものを目標に掲げたところ、1,280人台でとどまっているとか、あるいは文化団体の育成あるいは文化協会の会員数なんていうところにつきましても、目標値といたしましては1,500人という数を設定しておりますが、それについて実際は文化協会の会員者の数というのは1,200人ととどまっているとか、こんなようなところが代表的な事例としてはあるということで、ご承知おきいただければと思います。

○議長（中村芳隆議員） 21番、相馬義一議員。

○21番（相馬義一議員） 当然ながら、この第1次総合計画をつくるときにもいろいろと審査した

中での総合計画でございます。17%が多いかどうかというのは、私も判断しがたいところがありますが、今の部長の答弁ですと、ゼロにしたいというのが、当然ながらそうですよね。そのような、この第2次総合計画についてもそのような計画を策定してほしい、そのように要望をいたします。

それでは、(3)のほうに移りたいと思います。

今後の進め方でございますが、今後は第2次那須塩原市の総合計画の素案の作成をして、29年、来年の3月の議会で議案として上げ、4月からできれば施行したいという、今、答弁がございました。

その中の答弁の中で、議会との意見交換等をするという発言があったかと思えます。どのような方法で議会との意見交換をするのか、お伺いをいたします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） 今議会の初日に、総合計画の審査特別委員会を設置をしていただいたところでございます。そちらのほうに私どものほうから案を提案させていただいて、この委員会の中で審議をいただくということで考えているところであります。

○議長（中村芳隆議員） 21番、相馬義一議員。

○21番（相馬義一議員） そうですね、初日に議会のほうの特別委員会も設置されたところでございます。そこでしっかりと提案をしていただければと思います。

またその中で、先ほどの答弁の中でパブリックコメントや地域説明会を開催するというお話がございました。特にこの地域説明会についての方法について、どのような方法を考えておられるのか、それについてお願いします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田輝夫） 地域説明会につきましては、素案をつくった段階で黒磯地区、西那須野地区、塩原地区の3地区におきまして、それぞれ開催させていただいて、市民の皆さんのご意見を賜ってまいりたいというふうに考えているところでございます。

○議長（中村芳隆議員） 21番、相馬義一議員。

○21番（相馬義一議員） 当然ながら、1市2町が合併しているわけですから、この3地区というのは常に、何の説明会あるいは市政懇談会ですか、我々も議会報告会においても、この3つというのはどうしてもこう区切られてしまう。

そういう中で、3つの中に説明するという会場的にはお幾つぐらいを検討されていますか。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田輝夫） 会場につきましては、それぞれの地区の代表的な公民館あたりを活用させていただいて、そちらを会場としてやっていきたいというふうに思っています。

○議長（中村芳隆議員） 21番、相馬義一議員。

○21番（相馬義一議員） そうしますと、またあれですが、黒磯は黒磯地区1カ所、西那須野地区は1カ所、塩原地区は箒根と向こう、湯本というんですか、という形になるのかと思いますが、そういう感覚でよろしいでしょうか。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田輝夫） 議員が今お話しいたいたような感じで、我々も進めていきたいなと思っています。

その後ろ根拠といたしましては、前回の1次計画をつくるときも同じような説明会というのを開催しておりまして、そのときがやっぱり各地区多

いところで30名、少ないところで15名くらいの参加だったということでございますので、そのくらいの規模の会場を予定しているということでございます。

ただ、この数に満足してはいけませんので、しっかりとPRして、市民の皆さんに多く説明会のほうに参加していただく、そんな仕掛けはしっかりやらせていただきたいなと思っております。

以上です。

○議長（中村芳隆議員） 21番、相馬義一議員。

○21番（相馬義一議員） この第2次的那須塩原市総合計画、策定をいただいているところでございます。1から3番までいろいろお聞きしたわけです。

私、一番最初の前文でもお話ししましたが、市民が夢をもてるようなまちづくり、あるいは那須塩原市民であるということを誇りに思えるようなまちづくり、そのようなまちづくりを、新しく君島市長が誕生したわけでございます、そういう中でしっかりとつくり上げていってほしい、そのように思います。

当然ながら、この後、市政方針の中でもお聞きしますが、いわゆる子どもたち、特に子どもたちが、もちろん子育てという意味でもそうですが、子どもたちがこの将来、那須塩原市に戻ってこられるような施策といたしますか、今の子どもたちが、例えば10代の子どもたちがこの10年間の間には二十幾つになるわけですから、当然ながら仕事の関係でこちらに戻ってこられるような環境づくりの、いわゆる総合計画の策定をしっかりと取り組んでいってほしいということを申し上げ、この1項目については終了したいと思います。

続きまして、2の市政方針についてお伺いします。

3月議会において、市長は市政運営に当たり、

市民の皆様と同じ目線で、公平・公正を旨とし、市民優先の市政運営に取り組むと所信の一端を述べられました。

会派代表質問で市政方針の応答がありましたが、改めてお伺いするものでございます。

(1)少子高齢化と同時進行する人口減少社会への対策についてお伺いいたします。

(2)人口や税収の増加が困難な時代に、近隣市町と連携するとありますが、具体的にお伺いします。

(3)市政運営に当たり、市民との連携が密になると思われませんが、地域の代表である行政連絡員を初めとする非常勤の方の報酬は妥当であると考えていますか、お伺いします。

以上、お願いします。

○議長（中村芳隆議員） 21番、相馬義一議員の質問に対し、答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） 2の市政運営方針について、順次お答えをいたします。

初めに、(1)の少子高齢化と同時進行する人口減少社会への対策についてでございますが、本市の人口は、国立社会保障・人口問題研究所が平成25年3月に公表しました推計によりますと、平成27年をピークに減少に転じると推計されておりますが、実態としては、平成22年をピークに減少をしており、人口の減少化は確実に早まっている状況にあります。

このような状況を受け、人口減少社会への対策としては、私が公約に掲げました、総合的な結婚、出産、子育ての支援施策や、国・県との協働による雇用の場の創出などにより、人口減少克服と地域の活性化に向けてまいりたいと考えております。

次に、(2)の近隣市町との連携の具体的な内容についてですが、本市が中心市であります「那須地域定住自立圏構想」や、本市が構成市として参加

をしております「八溝山周辺地域定住自立圏構想」において、共生ビジョンに基づく地域公共交通ネットワークの確立、観光、物産等、地域資源の活用、再生可能エネルギーの導入促進等の取り組みを通して、市政運営方針で申し上げた、国や県とのつながりをさらに深め、近隣市町とも連携し、県北の中心都市となるべくまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

最後に、(3)の行政連絡員を初めとする非常勤の方の報酬は妥当と考えるかについてですが、特別職の職員で非常勤の者の報酬については、その特別職の職員を主管する部署において、労務実態等を勘案の上、議会での議決をいただき運用をして、必要に応じて見直しを行うこととしております。

行政連絡員の報酬につきましては、均等割額と班数割額及び戸数割額により算出をしており、それぞれの行政連絡員が受け持つ地域の実態に応じた報酬額によりお支払いをしている状況でございます。

1回目の答弁とさせていただきます。

○議長（中村芳隆議員） 21番、相馬義一議員。

○21番（相馬義一議員） この市政方針の質問に当たっては、3月議会で各会派の代表の方が多くの質問をされました。

まず、私が思うところでございますが、この市長になられる方というのはおおむね3つぐらいの人たちが、もともと全くの一般の方が、民間の企業あるいは民間独自で仕事をやられていた方が市長になられる方、あるいは議会それぞれの議会、栗川市長、阿久津市長もそうでしたが、それぞれの議会議員をやられていてそれから市長になられる、それで、君島市長はそうでございますが、もともと行政にかかわって、行政の職員であって、特に私が思うには、君島市長におかれましては、副市長を含めまして40年ほどこの黒磯市、那須塩

原市にかかわってこられた方だと思います。

特に一番、私が議員になって思ったのは、合併協議会等があつて、この那須塩原市、1市2町の合併が進んだ中の、その中での事務局長という形の立場で、私が思うには、市民あるいはこの合併に当たっての1市2町のそれぞれの考え方等々については一番、この中で一番理解をしている方が市長になられたと私は思っております。

そのような市長ですから、市長になられて、3月議会のその質問のご答弁において、私の思うようなご答弁が少し足らなかったと、私はとりました。

それは何かと申し上げますと、一つ一つの質問の内容の中に、これからは市民との意見を聴取して、あるいは検討をして、あるいは今後精査をしてというご答弁がちょっと多かったのではないかと思います。

私が思うには、一番行政を理解している君島市長だと私は思っておりますので、そのようなことを踏まえて、この質問を改めてさせていただきます。その辺を踏まえてご答弁をお願いしたいと思います。

まず、(1)の少子化、高齢化と人口減少問題の中で、人口の減少は確実に早まっているというご答弁がありました。その中で、その市長公約でもありました、この総合的な結婚、出産、子育ての支援策の中の結婚サポートセンターの設置ということがうたわれております。この件について予定をお伺いをいたします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） 結婚について、結婚サポートセンター設置をしたいということで公約として掲げておりますし、このサポートセンターについては、栃木県も相当力を入れた形で今取り組んでい

らっしゃるということでございます。こちらのほうと連携をさらに強めて、結婚対策に臨みたいなと思っておるところでございます。

また今回、6月の補正ではございますけれども、今現在提案をしております、結婚対策事業ということで予算を計上させていただいているところでございます。結婚に対する市民意識調査、それから結婚に対する総合戦略、そういったものを今回策定をして、最終的には本市の結婚サポートセンター、そういったところにこう結びつけられれば一番ありがたいなというふうな形で、今現在考えているところでございます。

○議長（中村芳隆議員） 21番、相馬義一議員。

○21番（相馬義一議員） そうしますと、そうですね、補正予算に500万が計上されています。多分この後、質疑等がありますから、その中でも出るのかなと私は思いますので、余り詳しくはやりませんが、この結婚サポートセンター、市長はいつごろ開業したいというふうに考えておりますか。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） 先ほどちょっと答弁の中で申し上げましたが、これから意識調査、そういったものを実施したい。これは予算が通ってからの話ではございますけれども、そういったものを踏まえた上で、でき得ればなるべく早い時期にこういった組織化ができればいいなというふうに考えているところであります。

○議長（中村芳隆議員） 21番、相馬義一議員。

○21番（相馬義一議員） 3月の質問の中でも、この人口減少についてはありました。前任の阿久津市長は、どちらかという外からの人を入れるという政策をとっていたのかなと私は思います。

君島市長におかれましては、この中で那須塩原市民が結婚をして、そこで出産をしていただいて

子育てにも力を入れ、それで人口をふやすという、どちらかというそういう方向なのかなと今、判断をしたところでございますが、それだけではどうしても、多分人口はふえるのは難しいのかなと現状では思います。

市外からその若い人を呼び、そして定住を促すような施策、今までもございました。それと同時に、その雇用の増加を達成するような施策について、お伺いをいたします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） 市内の中だけで人口をふやすというのは、なかなかこれは難しい話でございますので、やはり今まで那須塩原市が進めてきました定住促進、そういったものにさらに力を入れたいなというふうに思っております。

これについては、やはり市内の雇用の場、職場がなければ、やはり新たな人たちはなかなか来てくれないということでございますので、私は先頭に立って新たな企業誘致、そういったものにも取り組んでいきたいというふうに考えております。

それが那須塩原市の指導者としてのやはり役割なんだろうというふうに思っておりますし、それから今現在、市内でしていただいております企業がたくさんいらっしゃるわけですが、そういったところにもお邪魔をいたしまして、1人でも2人でも雇用をふやしていただけるような形をお願いをしたいと思っております。

既に市内の企業の訪問を始めておまして、そういったお願いをしてきたところでございます。

これからもこれは継続していきたいと考えております。

○議長（中村芳隆議員） 21番、相馬義一議員。

○21番（相馬義一議員） 市内の企業の訪問をするという、今ご答弁がございました。

市内にはもちろん大手企業という企業もあり、もちろん中小企業もあります。でも、一番多いのは、いわゆる零細企業と言ったらいいんでしょうかね、そういった企業があります。それで、現実にはそのような企業というのは、新たに人を雇えるような状況ではないという、現在の経済状況の中ではそういう状況かと思えます。

そういったことも含めまして、しっかりと従業員雇用の増加につながるような、これも施策も一つ考えていただきたい。

企業誘致というお話も先ほどあったかと思いますが、その辺も含めまして、今後それがどういうポジションになるのか、その人口減少時代に対してのポジションになるのか、市長はどのように考えているのか、その件だけちょっとお聞きします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） 全国的にやはり人口減少というふうな傾向が今進んでいるわけですし、ご多分に漏れず、この那須塩原市も人口減少の時代に入ったという状況でございますので、これらを何とか歯どめをかけたいと。なかなかこれをふやす、今現在11万7,000人から11万6,000人という人口を有しているわけですが、それ以上のものというてもなかなか難しい状況にあるんだろうというふうに思っております。

そういった中で、何とか維持をしたいというふうなことで、努力をこれからしていきたいなと思いますし、この人口減少対策がやはり那須塩原市の施策の中でも相当大きなウエートを占めるだろうというふうに思っているところであります。

○議長（中村芳隆議員） 21番、相馬義一議員。

○21番（相馬義一議員） そのようなお考えがあるということを知って、私も安心をいたしました。それでは、(2)のほうの近隣市町との連携につい

てお伺いします。

昨年でございますが、消防が那須地区消防ということで合併をされて、一つの消防になりました。

この近隣市町との連携という中で、もちろん広域事務組合というのがございますが、まず、市長が考えている近隣市町というのはどの範囲までを近隣市町と考えているのか、まずお伺いします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） 私が考えております近隣市町といえますのは、まず第一義的には、那須町そして大田原市ということがございます。そのほかに旧那須地区という大きなくくりがございますし、那珂川町もございます。これは那須地域の定住自立圏の中にもメンバーとして入っておりますし、それから塩谷地区で申しますと矢板、そういったものも間違いなく入ってくると、そういうふうに考えているところであります。

○議長（中村芳隆議員） 21番、相馬義一議員。

○21番（相馬義一議員） そうですよね、その辺かなとは私も思っております。

その中で、先ほど申し上げたように、消防が一つになった、那須塩原市にはそのほか那須町との連携で一緒にやっています火葬場あるいは市場等もあります。その辺を含めて、ただいま申し上げた、市長が答弁なされました近隣市町を含めた連携というものは、どのように今後進めていくのか、お考えをお示しをいただければと思います。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） ご質問がございましたが、私どものほうとそれから那須町で共同経営しております一部事務組合が2つございます。市場、そして火葬場ということでありましてけれども、当面はこれは存続を私はしていきたいなと思います。

ただし、火葬場については施設ですので、相当やはり老朽化が進むことも将来は考えられるであろうということで、これは那須町そして大田原市さん首長さん方と、今後そういった時期が来ましたときにはじっくり議論をさせていただいて、将来的にはそういった方向性を見出していきたいなと思います。

○議長（中村芳隆議員） 21番、相馬義一議員。

○21番（相馬義一議員） 理解をしました。

それでは、ちょっと施設ではない件になります。

先日、熊本の大地震がございました。その中で、那須塩原市も救援物資支援ということで、被災地に支援をしました。

これも下野新聞ですが、その前に報道では大田原市が先に行動を起こした、そのようなことがありましたが、もちろん東日本大震災のときもさまざまなご意見がありました。

そういった緊急時あるいはそういった災害時について、今おっしゃられました近隣市町との連携は図れるものかどうか、ちょっとお伺いします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

総務部長。

○総務部長（和久 強） 4月の熊本地震におきましては、近隣市町、例えば大田原市あるいは那須町の連携というのはございませんでした。栃木県との取りまとめあるいは調整といったものもございませんでしたので、必要な支援物資のほうを、熊本県からご紹介がありました4つの自治体のほうから、全国産廃問題市町村連絡会のかかわりがありました宇城市のほうに支援を行わせていただいたというようなことでございまして、また、大田原市あるいは那須町さんのほうでも、それぞれ事情がありまして、関係があるところにお送りしたというふうなことを聞いております。

やはり、災害時の連携であります。1つには、

協定を結んでおりますので、そんなところから近隣市町からも応援が受けられるというふうに認識をしているところでございますし、また、こういうふうな支援をするというふうなところにおきましても、今後はそういった連携も必要であろうというふうには考えております。

以上です。

○議長（中村芳隆議員） 21番、相馬義一議員。

○21番（相馬義一議員） 総務部長のほうから答弁をいただいたわけですが、そうですね、私もそう思います。

相手方、被災地側というんですかね、でも、いろんな救援物資等をいただいた中で、いろんな問題が発生するとお聞きします。

そういったことも含めまして、個別に行くのではなく、できればその大田原市さん、那須町さん、この広域事務組合と一緒に組んでいる市町とぐらいは、声をかけ合って取り組んでいければいいのかなと私は思いますので、今のご答弁だと、そのような方向も考えられるという話でございますので、どうか取り組んでいただきたいと思います。

それでは、(3)のほうに移ります。

行政連絡員等、いわゆる非常勤勤務の報酬でございます。

ご答弁の中では、労務実態等を勘案の上、決定、運用しているというご答弁がございました。

当然ながら、行政連絡員の報酬等については、その算出方法については、我々は議員は皆さん承知しているところでございます。

しかしながら、実はこの行政連絡員、大きい自治体はちょっと僕よくわかりませんが、私が住んでいるあたり、おおむね50軒、自治体自体が50戸あるいは60戸ぐらいの自治体だと、この行政連絡員、なり手がいないというのが現状でございます。

私の地域においては、簡単に言うと順番制で行

政連絡員を選んでいる。この行政連絡員がもちろんその行政連絡員の役割をしっかりと把握でき、そして行政連絡員と自治会長を兼ねているものですから、その辺が非常に負担が多くなっている。特に、近年になりましては、自主防災組織、あるいは来年度から始まります、地域助け合い運動等々も立ち上げていかなければならない。

そうしますと、行政連絡員に当たった方が、しかも私のところは単年でございます、1年交代でございまして、当たった年の方がそういったものを全て受け入れなければならないような状況にあります。

行政連絡員の報酬は、実務の実態等を勘案してというお話がありました。その辺について、まず、その行政連絡員の役割というのは、業務内容について、まずは伺いをいたします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田輝夫） 行政連絡員さんの役割と業務内容ということでございますが、行政連絡員につきましても、各地区の自治会長さんに委嘱をお願いしているというようなところでございます。

実際どのようなことをやっていたかとお申しますと、ちょっと大きな話をさせていただきますと、市政の健全な運営を目的といたしましてというようなところの目的が入りますが、その中で、市民の皆様へ行政情報をこまめに正確に届けていただくというのが役割だということでございます。具体的には、市からの文書ということで、広報なすしおばら等を月2回、各世帯のほうにご配布いただいているというようなところでございます。

○議長（中村芳隆議員） 21番、相馬義一議員。

○21番（相馬義一議員） ただいまご答弁になら

れました業務だけでしたら、非常に現状の報酬でも間に合うのかなと私は思います。

しかしながら、先ほど申し上げたように、さまざまな業務が、もちろん自治会長としての仕事になるのかとは思いますが、兼ねている状況の中では、行政連絡員、ととてもとても俺のところに戻ってきたんでは俺はこなせないよと、特に俺はサラリーマンだから、こんなこと順番で回ってこれてもできないよというのは現状でございます。

その辺を含めまして、この報酬について見直しを考える時期かなとは思っておりますが、その辺についての考えをお伺いします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） 再度ご質問で、報酬の見直しを考えたらいかがかというふうなことでございました。

今現在、この行政連絡員の方々からこの報酬等々に関するお話はちょっと出ておりませんが、先ほども答弁の中で申し上げましたとおり、実態をさらに十分に調査をした上、報酬についてもちょっと研究をさせていただきたいと思っております。

○議長（中村芳隆議員） 21番、相馬義一議員。

○21番（相馬義一議員） ちなみにでございます、この見直し、前回はいつごろされたかだけ、ちょっとお伺いします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田輝夫） 行政連絡員の報酬の見直しということでございますが、こちらにつきましては、3市町が合併したときに統一しなくてはならないということで、見直しを行っています。それを実際、適用したのが平成17年の4月1日からということでございますので、それ以降現在に至

るまで、見直しのほうは行っていないというよう  
な実態でございます。

○議長（中村芳隆議員） 21番、相馬義一議員。

○21番（相馬義一議員） といいますと、10年間  
は現状維持だったということだと思います。

それに比べてその連絡員がする仕事、自治会長  
と、これもだから、ちょっと難しいところがある  
んですけども、行政連絡員は行政連絡員だと、  
それだけの仕事だよとなれば、それはそれなんで  
すけれども、自治会長も含めまして兼ねてやって  
いる人たちを考えると、労務が非常にふえてい  
る、そのようなことを感じられます。

先日、私どもが議会報告会、私ども第2班でご  
ざいましたが、鍋掛公民館でその報告会をやりま  
した。その中で、先ほど申し上げた、この地域住  
民助け合い事業のことについて、いろいろ話し合  
いをしたわけでございます。その中でもこのよう  
なお話が出ました。

ですから、この自治会長あるいは行政連絡員が  
大変でならないというお話が出ました。その辺も  
含めまして、そういう意見もあるということがあ  
りますので、その辺も検討していただければと思  
います。

改めて、市長の市政方針について伺ったわけで  
ございます。最初に申し上げましたが、3月議会  
において、多くの質問に対し市長は答弁をなされ  
てまいりました。私が気づいた点は、先ほど申し  
上げたとおりでございますので、選挙において君  
島市長は市民からいわゆる信任を得たわけでござ  
います。当然ながら、しっかりとリーダーシ  
ップをとっていただき、今後の那須塩原市の子ども  
たちが生き生きと育てられるような環境づくり、  
あるいは社会福祉、多くの問題はあるかと思いま  
すけれども、しっかりと遠慮せずに政策を打ち上  
げていただきたい、そのように思っております。

多分、我々議会側としても、その市長が提案す  
る議案あるいはそういったことに対しては、間違  
いなく是々非々という立場で対応を図ると思いま  
す。

ですから、何度も申し上げますが、市民から信  
任を受けた市長でございますので、もちろん公約  
はあるかと思えます。公約をしっかりと実施する  
とともに、私が一番恐れているのは、市民の声を  
多く聞くという言葉が答弁の中で数多く出ます。

問題は、市民の声を聞くということで、聞くだ  
けになって、いわゆる市民が伝えたいことを聞い  
ただけで、いわゆる市民のガス抜きになるだけで  
は困るなと思っています。

ですから、聞いた以上は政策として取り上げら  
れるかどうかをしっかりと判断をしていただいて、  
できないものはできないとはっきりお答えし、で  
きるものについてはしっかりと予算化をし、実施  
していただきたい。それに当たりましては、先ほ  
どから申し上げているように、しっかりと方向づ  
けをしていただいて、市長の思うような市政運営  
をやっていただきたい。

3月議会の質問等の答弁に当たっては、少し議  
会に対して遠慮しているのかなというふうに私は  
とれました。どうでしょうか、その辺お願いします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） 私は市議会に対して遠慮をし  
ていることはないとは自分では思っておりますけ  
れども、これから与えられた4年間という任期が  
まずございます。この中で、私が考えたまちづく  
り、そして将来的に那須塩原市がもっとよくなる  
まちづくり、そういったものに向けて全力で取り  
組んでいきたいなというふうに思っているところ  
でございます。

○議長（中村芳隆議員） 21番、相馬義一議員。

○21番（相馬義一議員） 今回の質問において、私が市長にこう伝えたいというかは通ったかどうかよくわかりませんが、質問という形ですのようなお話をさせていただきました。

何度も繰り返します。どうぞ、強いリーダーシップのもと、那須塩原市をすばらしい市に構築していただくことをご期待申し上げ、私の敬清会としての会派代表質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（中村芳隆議員） 21番、相馬義一議員の会派代表質問は終了いたしました。

以上で、会派代表質問者通告者の質問は全て終了いたしました。会派代表質問を終わりたいと思いますが、異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（中村芳隆議員） 異議なしと認めます。

会派代表質問を終わります。

ここで10分間休憩いたします。

休憩 午前11時00分

再開 午前11時09分

○議長（中村芳隆議員） 休憩前に引き続き会議を開きます。

—————◇—————

#### ◎議案第44号～議案第47号の

#### 質疑

○議長（中村芳隆議員） 次に、日程第2、議案第44号から議案第47号までの条例改正案件4件を議題といたします。

以上に対し質疑を許します。

2番、星宏子議員。

○2番（星 宏子議員） 議案第46号 那須塩原市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例案についての質疑なんですが、資料のほうで、資料の11ページ、改正案第10条の3、(4)学校教育法の規定により、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校とありますが、この義務教育学校が入った理由をお伺いいたします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

子ども未来部長。

○子ども未来部長（藤田恵子） 義務教育学校が入った理由ということですので、私のほうからご答弁させていただきますと思います。

放課後児童健全育成事業の設備、運営に関しましては、まず基準というものが定められておまして、その基準におきまして本市の条例を定めるところでございます。その基準の中で、今回、国において児童福祉法の中の設備、運営に関する基準という、そのもとになっているところが改正されたことによって市の条例を変えたのですが、その大もとのところ、学校教育法等の一部を改正する法律の施行によりまして、支援員の資格の要件に義務教育学校の教諭となる資格を有する者という資格の要件が追加されたということになります。

ですから、一番発端となっておりますのは、学校教育法の一部を改正する法律の施行によるものでございます。

以上です。

○議長（中村芳隆議員） ほかにございませんか。

14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） 今の関係なんですが、私ちょっとわからないので聞くんですが、義務教育学校というのはどんなものなのか、ちょっと確

認をお願いします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

教育長。

○教育長（大宮司敏夫） 先ほど子ども未来部長からありましたとおり、学校教育法が改正になりました。その中に従来の小学校それから中学校、この2つを一貫して教育を行う新たな教育をする学校として「義務教育学校」というものを国のほうが法制化したということがございます。

ただ、内容につきましては、当然のことながら学習指導要領をもとに教育を受けるわけでありますので、小学校及び中学校の課程を履修することについては、これは何ら変更はございません。ただ、従来のように、小学校6年間で一区切り、中学校3年間で一区切りではなくて、いわゆる9年間一貫したカリキュラムのもとに子どもたちが学ぶというようなことでの新しい仕組みを一つ加えたということがございます。

当然のことながら、免許につきましても、従来どおりの小学校では小学校の免許を持った先生が、中学校では中学校の免許を持った先生がということですが、それに加えて、先ほど話が出ましたとおり、義務教育学校としての免許、これはまだ免許法の改正がまだ終わっておりませんが、そういったものに充てるというようなことを当然見通した上での新たな学校ということで、理解をいただければというふうに思います。

○議長（中村芳隆議員） ほかにございませんか。

〔発言する人なし〕

○議長（中村芳隆議員） ほかに質疑がないようですので、議案第44号から議案第47号までの条例改正案件4件に対する質疑を終了することで異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（中村芳隆議員） 異議なしと認めます。

よって、質疑を終了いたします。



#### ◎議案第42号の質疑

○議長（中村芳隆議員） 次に、日程第3、議案第42号 一般会計補正予算案件を議題といたします。以上に対し質疑を許します。

20番、山本はるひ議員。

○20番（山本はるひ議員） それでは、一般会計補正予算の第1号、予算書の10ページ、11ページ、執行計画書の3ページ、先ほど会派代表質問で出ておりましたけれども、結婚に関する市民意識調査及び総合戦略策定に対する予算のところでございますが、ここの500万円の予算、つまりこの計画が6月補正で出てきた理由を聞かせてください。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田輝夫） 結婚対策事業ということですが、内容につきましては、先ほど市長のほうから説明があったというようなところでございまして、これがなぜ6月かと申しますと、この事業につきましては市長の公約事業ということで、できれば当初の予算の中で計上したかったという実情がございしますが、そんな中で当初の段階では、やっぱり内容的なところで、大まかですよ、大きい意味での内容のところでは基本的な考え方とか、どのような進め方をしていくのかといったところが、まだしっかりと整理し切れなかったものですから、やはりそういうような状況の中で、そうは言いながらも公約事業ということで、少しでも早くしなくてはならないということがありまして、そういうものを整理した上で6月に計上させていただいたというのが実態でございます。

○議長（中村芳隆議員） 20番、山本はるひ議員。

○20番（山本はるひ議員） その理由はわかりました。

次に、この事業の予算が、総務費の1項11目の男女共同参画費に入っていて、シティプロモーションとか定住促進に入っていない理由をお聞かせください。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。  
企画部長。

○企画部長（藤田輝夫） 予算の場所ということでございますが、こちらにつきましては、どこの部署が担務するかというところで、ちょっと内部的に調整をしなくてはならなかったという状況がございます。

そんな中で、今般、関係する部の部長同士の相談をしまして、その内容について市長、副市長のほうにご説明申し上げまして、結婚支援対策の総合調整につきましては、市民協働推進課のほうで担務するというようなところで落ちついたということでございます。

○議長（中村芳隆議員） 20番、山本はるひ議員。

○20番（山本はるひ議員） それも了解をいたしました。

次に、これ、郵便料が29万1,000円と、それから意識調査と総合戦略の策定が470万9,000円になっているんですけども、この意識調査を、多分委託料なので委託をすることになっているんですが、この委託をどんな形でするのか、また、総合戦略策定もその委託をすることなのか、この中身についてお聞かせください。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。  
企画部長。

○企画部長（藤田輝夫） 総合戦略の策定については、できれば県内のシンクタンクといったところに業務を委託していけないかということで、今、検討を進めているというところでございます。

以上です。

○議長（中村芳隆議員） 20番、山本はるひ議員。

○20番（山本はるひ議員） この意識調査も一緒にやるということで、よろしいのですか。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。  
企画部長。

○企画部長（藤田輝夫） 意識調査につきましては、その調査票の郵送、相手方に送り届けるのと回収については市がやるということで、その戻ってきたものの集計、分析については委託をしたいというふうに考えているところでございます。

○議長（中村芳隆議員） 20番、山本はるひ議員。

○20番（山本はるひ議員） そういたしますと、男女共同参画の係のところでは、この市民意識調査及び総合戦略策定の企画そのものはやらないということの理解でよろしいわけですか。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。  
企画部長。

○企画部長（藤田輝夫） 市民協働推進課としては、やはりアンケートの設問のところからもかかわってまいりますし、あとは総合戦略の骨組みといったところに関しては、しっかりと市としての考え方をお伝えして物事をつくっていくというような形になると思います。

○議長（中村芳隆議員） 20番、山本はるひ議員。

○20番（山本はるひ議員） そうですね、このごろ大変、市民への意識調査とかアンケートが多いと思うんですが、物によっては庁内でそれをつくって、それを分析しているところがありました。

結婚の調査というのは非常に単純なことだとは思いますが、これを改めて外部に出すということで、内部でそれをやるということは考えなかったのかどうかをお聞かせください。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。  
企画部長。

○企画部長（藤田輝夫） 先ほどもお答えしましたとおり、設問については我々も当然のことながら絡んでいくというのは同じでございますが、私自身が思うには、そんなに簡単な設問でもないかなと。設問の出し方というのは、ちょっと知恵を使わなくてはいけないなというように思っていますので、そこは市とシンクタンクの中でしっかりと設問を設けて、それを要はしっかりと答えを導くことによって、その相手のニーズというんですかね、そんなものを適切につかんでいきたいなというふうに思っているところです。

○議長（中村芳隆議員） 20番、山本はるひ議員。

○20番（山本はるひ議員） 先ほどの代表質問の中でございましたように、結婚サポートセンターにこれをつなげていきたいということだったんですが、このアンケートを、意識調査と総合戦略の策定をすることが、結婚サポートセンターに結びつくという、そのためにやるということによろしいわけですね。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。  
企画部長。

○企画部長（藤田輝夫） 先ほど市長も答弁されていましたが、結婚サポートセンターにつきましては、やっぱり結婚施策を推進していくための拠点施設ということになります。

そんな中で、その拠点施設はつくったのはいいですが、そこでやる事業そのものがどういうものがあるかということになりますと、議員ご承知のとおり、今、市のまち・ひと・しごと総合戦略の中で重要施策として結婚というテーマを持って、それに対して事業を整理していますが、その事業が2つしかないといった状況でございますので、果たして2つで実のある結婚支援ができるかといいますと、私は甚だ疑問でございますので、器もつくるが、しかし事業内容も充実させたい、それ

で来年度からやっていくと、そういう覚悟でございます。

以上です。

○議長（中村芳隆議員） 7番、櫻田貴久議員。

○7番（櫻田貴久議員） それでは、補正予算執行計画書の中から、10款教育費、1項4目学校運営支援費、新規教育情報化推進指導員ICT事業サポート派遣についてなんですが、まず、派遣についての経緯についてお伺いをいたします。

また、今までにどのような課題が出ていたのかもお伺いをいたします。

○議長（中村芳隆議員） 櫻田貴久議員に申し上げます。

一問一答なので、一問ずつ質問をお願いします。

○7番（櫻田貴久議員） 了解しました。

それではまず最初に、派遣についての経緯についてお伺いをします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

教育部長。

○教育部長（伴内照和） ICT支援員の派遣の経緯でございますが、現在までに豊浦小学校を中心に実証、研究を行ってきているところでございます。

その際においても、やはり情報機器の的確な使用というものが必要になってくるものですから、今回、日新中学校区に新たに実証を行うという展開を進めていく中では、同じようにやはりICTの支援員を置いて、より中身のあるものにしていきたいということでの配置でございます。

○議長（中村芳隆議員） 7番、櫻田貴久議員。

○7番（櫻田貴久議員） 機械等に関するトラブル等なんかの課題もあったと思うんですが、そういったものを考慮するという意味での派遣ということ認識してよろしいのでしょうか。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

教育長。

○教育長（大宮司敏夫） まず、豊浦小学校に導入した際に、ICT支援員を1名常駐させました。

このことによって、先生たちは機器の操作にかける時間をICT支援員の方をお願いすることによって、教員本来が授業の準備にかける時間に十分な時間をかけることができ、なおかつ授業の中でうまく機器を活用した授業を展開することができたという点では、大変メリットがあったというふうに考えております。

また、台数も多くあるわけですので、そちらのほうの補修等も含めたときには、機器の的確な運用に当たっての技術的な支援というものはICT支援員の方をお願いすることが望ましいと思えますし、今後、国もチーム学校という形でさまざまな立場から教育活動に当たるといような体制もとることを、方向性を示してきておりますので、そういった意味でも大変有効になってくるのかなというふうに期待をしているところであります。

○議長（中村芳隆議員） 7番、櫻田貴久議員。

○7番（櫻田貴久議員） 派遣員は学校の先生ではありませんよね、その辺一点確認します。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

教育長。

○教育長（大宮司敏夫） 確かにICT支援員の方は教員の免許を持っているわけではありません。

ですが、先生方と綿密な打ち合わせをして、授業のあり方等については十分理解をして、そのサポートをするということにつきましては、豊浦小学校の研究の中で、大変たくさんのノウハウを我々は得たなというふうに思っておりますし、そういうことを事前にICT支援員の打ち合わせ等で十分理解をしていただくというところで行けるだろうというふうに考えております。

○議長（中村芳隆議員） 7番、櫻田貴久議員。

○7番（櫻田貴久議員） 今回は日新中学校学校区ということなのですが、指導員の数は1人ではないのでしょうか、何人なのかその辺もお伺いします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

教育長。

○教育長（大宮司敏夫） 理想を申し上げれば、各学校に1人ずつ常駐するということが望ましいことであろうとは思いますが、実際のところ予算的なものもありますので、日新中学校とそれから鍋掛小学校をそれぞれ、日によって半日ずつ受け持つか、あるいは場合によっては、授業のこまの入れ方によってはどちらの学校に行くかというあたりは、それは臨機応変に柔軟に対応していくことができるだろうと思っておりますので、現実的な問題として、2校で1名の支援員で実施をしていきたいと考えております。

○議長（中村芳隆議員） ほかにございませんか。

〔発言する人なし〕

○議長（中村芳隆議員） ほかに質疑がないようですので、議案第42号 一般会計補正予算案件に関する質疑を終了することで異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（中村芳隆議員） 異議なしと認めます。

よって、質疑を終了いたします。

—————◇—————

#### ◎議案第43号の質疑

○議長（中村芳隆議員） 次に、日程第4、議案第43号 特別会計補正予算案件を議題といたします。以上に対し質疑を許します。

〔発言する人なし〕

○議長（中村芳隆議員） 質疑がないようですので、議案第43号 特別会計補正予算案件に対する質疑

を終了することで異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

- 議長（中村芳隆議員） 異議なしと認めます。  
よって、質疑を終了いたします。

—————◇—————

◎議案第48号及び議案第49号  
の質疑

- 議長（中村芳隆議員） 次に、日程第5、議案第48号及び議案第49号のその他の案件2件を議題といたします。

以上に対し質疑を許します。

13番、磯飛清議員。

- 13番（磯飛 清議員） 49号のほうで質疑をします。黒磯那須共同火葬場組合格約の一部改正変更についてであります。

今回、規約が改正される内容については、市民には歓迎すべき改正だと解釈しておりますが、この改正に至った経過をお聞かせください。

- 議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

生活環境部長。

- 生活環境部長（山田 隆） それでは、規約の改正に至った経過についてご説明いたします。

黒磯那須共同火葬場の使用料につきましては、合併以来、旧黒磯市の区域の住民とそれから旧西那須野、塩原の住民の方々に差が生じておりました。西那須野、塩原の住民のほうがちよっと高いという状況が続いておりました。

このたび那須町との協議が調いまして、その不公平を解消という形で規約の改正を行いまして、来年の4月から実施するというところでございます。

なお、その差額につきましては、今までは補助金の交付という形で対応させていただいたところでございます。

以上でございます。

- 議長（中村芳隆議員） 13番、磯飛清議員。

- 13番（磯飛 清議員） ただいまの説明の中で、今まで、従来は差額は市のほうで利用者に補助として支給していたということなんですが、今回の改正は、那須町との協議の中で市の負担割合というか、那須町と黒磯地区、塩原地区、西那須野地区、全て同じ料金でやるということで、市の補助は出ないということの解釈でよろしいのでしょうか。

- 議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

生活環境部長。

- 生活環境部長（山田 隆） 議員のおっしゃるとおり、そのとおりでございます。

- 議長（中村芳隆議員） 13番、磯飛清議員。

- 13番（磯飛 清議員） ちなみに今まで、前年度でも結構なんですが、黒磯地区外、西那須野地区、塩原地区の利用状況というのがわかればお聞かせください。

- 議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

生活環境部長。

- 生活環境部長（山田 隆） 昨年度、平成27年度の利用状況であります。旧西那須野町、旧塩原町の方の利用件数、21件の利用がございました。

以上でございます。

- 13番（磯飛 清議員） 了解しました。

- 議長（中村芳隆議員） ほかにございませんか。

〔発言する人なし〕

- 議長（中村芳隆議員） ほかに質疑がないようですので、議案第48号及び議案第49号のその他の案件2件に対する質疑を終了することで異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

- 議長（中村芳隆議員） 異議なしと認めます。

よって、質疑を終了いたします。



◎散会の宣告

○議長（中村芳隆議員） 以上で本日の議事日程は  
全て終了いたしました。

本日はこれをもって散会いたします。

ご苦労さまでした。

散会 午前11時31分